



佐川美術館
アートコラム⑬

日本の伝統—和紙と日本画

公益財団法人佐川美術館
学芸員：藤井 康憲



美術館で解説文を読んでいて「支持体」という言葉を目にしたことはありませんか。この「支持体」とは、絵が描かれている物を意味し、「木」や「石」、「紙」などが支持体にあたります。例えば、お寺や神社など建築物の中にある柱絵は「木」、古墳に描かれる壁画は「石」に描かれています。それ以外にも絹の上に絵が描かれることがあります。美術館で展示されている日本画の作品に「絹本」とキャプションに記されるものがありますが、それは支持体が絹であることを示します。この絹と同様に日本画に多く使用されるものとして紙が知られています。

佐川美術館が所蔵する平山郁夫の作品のほとんどが伝統的な和紙、特に越前和紙に描かれています。その産地である福井県越前市は、質・量ともに全国一の和紙として、1500年前から作られていたとも言われています。越前和紙の中でも「雲肌麻紙」と言うきめの細かい強靱な和紙が日本画に使用され、絵具を厚く塗り重ねることができます。平山の作品では、場所によって100回以上塗り重ねているところもあり、その強靱さが窺い知れます。

平山郁夫は、日本画で使用する岩絵具の色鮮やかさ、その美しさを味わうために、和紙が最も適していると考えました。使用される素材を適切に選ぶことで、千年以上もの長い間、優れた日本画が私たちの心を捉え続けてきたと語ります。伝統的な日本画の描き方を熟知した平山郁夫が手掛けた作品の数々をぜひ佐川美術館でご覧ください。

いつだって好奇心 手を伸ばせばそこに本

子どもの読書活動 学校・園の取り組みを紹介します②

問 社会教育課 ☎(582)1142 ☎(581)2733

守山北中学校

図書委員会主催「文芸コンクール」

本校では、毎年(特に後期図書委員会)、全校生徒から文芸作品を募集して、コンクールを行っています。応募は1人1作品で、小説・詩・短歌・俳句の中から好きなジャンルを選びます。

過去6回の応募作品は全て小説で、中学校の部活を題材にしたものや戦記物、航海物などさまざまな内容で応募がありました。

審査は図書委員が印刷し編集した応募作品を読んで行います。

複数の応募があった場合は、投票をして最も得点が多い作品を優秀賞とします。作品が1つの場合は、その作品を読んで、優秀賞・佳作・選外を投票で決定します。



カナリヤ保育園

「大好きな絵本を見つけたよ!」

子どもたちはみんな絵本が大好き。日々の保育の中で、いろいろな本に出会う時間を大切にしています。

1歳児の子どもたちが大好きな絵本の中に、「おーい、かばくん」があります。

絵本を繰り返し見聴きする中で、少しずつストーリーを覚えて楽しむ姿が見られるようになりました。「おーい、かばくん」と口に手を当て、元気よくセリフを言う子どもたち。大好きな絵本を通して、友達と思いを共感する姿も見られます。

これからもいろいろな絵本を通して、子どもたちの感性を育てていきたいです。

